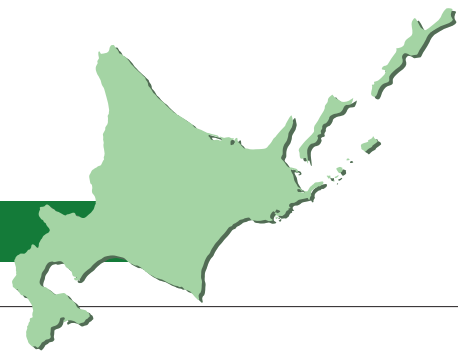


3月の道内景況

情報連絡員レポート

製造業は持ち直すも 非製造業では厳しさ増す

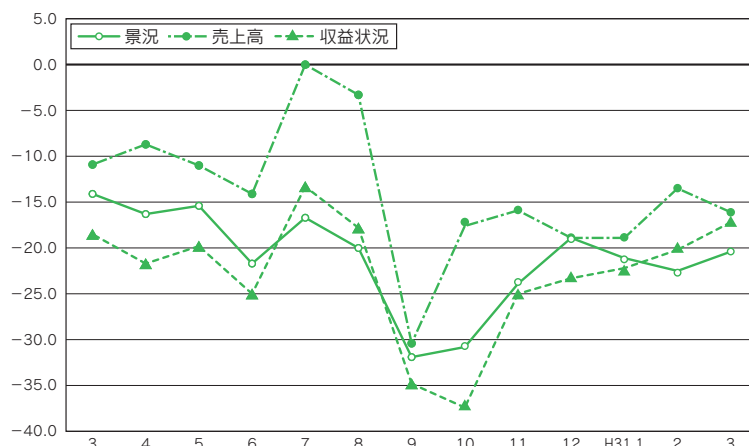


概況

全業種の主要DI値の推移では、「景況」「収益状況」で若干改善したが、「売上高」は悪化した。

業種別に見た前月との比較では、製造業では全項目で改善したが、「販売価格」以外は依然マイナス域での推移となった。非製造業では「収益状況」以外の全項目で悪化し、足踏み状態が続いている。

主要DI値の推移



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	2月	3月	前月比	2月	3月	前月比	2月	3月	前月比
業界の景況	△22.5	△20.4	2.0 ↗	△25.8	△18.2	7.6 ↗	△20.7	△21.7	△1.0 ↘
売上高	△13.5	△16.1	△2.6 ↘	△19.4	△12.1	7.2 ↗	△10.3	△18.3	△8.0 ↘
収益状況	△20.2	△17.2	3.0 ↗	△29.0	△21.2	7.8 ↗	△15.5	△15.0	0.5 ↗
販売価格	3.4	3.2	△0.1 ↘	6.5	9.1	2.6 ↗	1.7	0.0	△1.7 ↘
取引条件	△4.5	△5.4	△0.9 ↘	△6.5	△3.0	3.4 ↗	△3.4	△6.7	△3.2 ↘
資金繰り	△7.9	△8.6	△0.7 ↘	△16.1	△12.1	4.0 ↗	△3.4	△6.7	△3.2 ↘
雇用人員	△12.4	△16.1	△3.8 ↘	△6.5	△6.1	0.4 ↗	△15.5	△21.7	△6.1 ↘

(凡例)

30 以上

10 ~ 29

9 ~ △ 10

△ 11 ~ △ 29

△ 30 以下



天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI値)をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

- ・原材料費の高止まりが続き、販売価格の上昇を招いているため、売上高は減少し、収益状況と業界の景況は悪化している。(水産食料品／全道)
- ・4～5月に光熱費、物流費、包材費、人件費、さらに原材料の高騰による値上げの案内をお客様(スーパーや業務店等)に知らせたことで、少し売上が上がったように思う。4月以降は値上げ商品が多くなるので、買い控えによる売上げ減少が少しの間続くともみられる。(めん類／全道)
- ・消費者の低価格指向は変わらずで、客数は増えても売上が横ばいという小売店の声がよく聞かれます。飲料の値上げ交渉はなかなかまとまらず、ゴールデンウィーク後の5月から再スタートになりそうです。(飲料／全道)
- ・製材市況は、カラマツは、保合。エゾ・トドマツは、保合～強気配。原木市況は、カラマツは、保合～強含み。エゾ・トドマツは、保合。
カラマツ原木は、製材では集荷が回復基調にあるが、原材料では、パイオに引っ張られて不足感がある地域もある。
エゾ・トドマツ原木は、カラマツと同様に不足感は解消されつつある模様ですが、原材料については、カラマツ同様バイオマスの関係で不足感が一部地域で見られる模様。
カラマツの製材については、梱包・パレットの注文は順調、ラミナがやや低調とのこと。

- エゾ・トドマツの製材は、荷動きは例年よりやや鈍く、今後の値上げについて検討するところもある模様。(一般製材／全道)
- ・釧路地域では、工事量の減により売上の減少が見られたものの、前年と同程度。函館地域では、新幹線札幌延伸に伴うトンネル用砂・砂利需要に対応できなくなってきている。(窯業・土石製品製造業／全道・砂利)
- ・会員事業所の状況
現場の人手不足が予想以上に進んで、現状の人員体制では工程に遅れが生じている。人材の確保、人材育成が不可欠。
造船業界の状況
中国や韓国との受注競争激化の煽りを受け、低船価での受注と造船鋼材価格の上昇などで採算は年々悪化している。(金属製品／室蘭)
- ・年度末の本来忙しい中、印刷業種は用紙メーカーの値上げに応じたにもかかわらず全域で用紙不足が起きているため、生産に支障が出た。(金属機械工作／札幌)
- ・冬の間停滞していた製造業も、ようやく前年度並みまで回復。設備を増設した企業もあり、これから期待する。売上・収益・操業度、ともに前年度並み。雇用に関しては、人出不足が続いているとのこと。(金属機械工作／江別)

非製造業(卸・小売・商店街・サービス業)

- ・各種商品ともに売上は減少または横這いとの回答が多数で、消費の落ち込みが伺われる内容となっている。
団地再整備は新ビルの上棟式を終え、12月の建物完成に向かって順調に進行しているが、周囲の再開発については新幹線札幌駅周辺のビジョンが固まらないため慎重に動かざるを得ない状況にある。(各種商品／札幌)
- ・玉葱の3月期の市場価格については、高値疲れにより、前月を下回るものの、まだまだ堅調な推移と言える。
馬鈴しょの2月期は、価格安定対策事業の安値の基準である「保証基準額」を、若干下回ったものと思われるが、3月期は、さらなる安値を計上したものと推定される。しかしながら、安値補てん金は微々たる金額が想定される。(野菜・果実／全道)
- ・配送コストの高騰で収益的には厳しい状況が続く。取引先小売店の動向が低迷していることから売上も前年と並べてやや落ち込んでいる状況が続いている。(菓子／全道)
- ・ゴールデンウィークの10連休の影響から、旅行関係の売上げが前年の150%を越える取引先もあり好調で、需要期の家具・家電も堅調で前年を上回った。キャッシングにおいては、前年を超え増収となったが、総合的な収益では、物販の加盟店手数料が同業他社との競争激化に伴う取引条件低減により悪化しているため、前年並みにとどまった。(各種商品／旭川)
- ・昨春秋に大型店のオープンがあり、市内各スーパーや市場等には当然影響があった。一時的な影響かと思ったが、3月になっても以前の客数は戻らないなど、影響はかなり深刻。今までのお客様も高齢になって買い物に出歩けないなど状況は厳しい。(各種商品／小樽)
- ・今年は雪が少ない3月だったが、卒業新入学の準備による売上は思ったほど伸びてはいない。消費増税に伴うポイント還元事業の受付開始が始まり、中小事業者に追い風となる事業となることを願う。(各種商品／苫小牧)
- ・3月の各組合員の状況について
3月の各組合員の状況ですが、売上についてはなんとか前年並みの売上を確保することができたとの声が多かった。ただ依然として、釧根地域を取り巻く環境は厳しい状況が続いていて先行きを不安視する声が聞かれた。(各種商品／釧路)
- ・2月の温かさで雪解けが進んだおかげで、3月に入りすぐに自転車の購入、修理が始まった。2～3週間早い動き出しで、ここ数年では最高の滑り出しだった。しかしながら3月下旬の寒の戻りのため動きが若干止まっている。(自転車／全道)
- ・鮭・魚卵・マグロ等価格が上がって利益が少なくなっている。3月は観光客もなく売上げは下がり気味。パートの人員不足は相変わらずで、なかなか人が

- 集まらない。(各種食料品／札幌)
- ・当組合の役員改選があり、各委員会も編成され新たな企画も検討し、キャッシュレス決済などにも早急に取り込む方針である。
当市場においては、来場者が減少し売上も減少したが、4月末の大型連休の来場者及び売上に期待したい。(鮮魚／釧路)
- ・ガソリン・灯油等石油製品の3月の販売動向を見ると、道北方面等一部地域においては寒波などによる需要増も見受けられるが、全体的には予想をはるかに下回る結果となった。要因としては依然続く節約基調によるものであり、定量買い、定額買いに顕著に表れている。
また、原油価格の動き等を受け、元売仕切り価格の変動が激しかったことから、末端販売店にあっては、厳しい競争環境等を背景に、確実な価格転嫁ができていない状況。さらに、競争環境の激化から値上げができず、量は出ても収益増にまで結びついていないというケースも一層多くなっている。(燃料／全道)
- ・生活家電、AV機器ともに売り上げは微増。パソコンはWindows7のサポート終了を控え、法人、個人の需要増がみられる。消費税10%をにらんだ大型商品の買い替え需要もみられる。重電各社の家電製造離れが顕著。(電気機械器具／全道)
- ・雪解けも早く、小売の方は好調ようだ。営業マン含め、人手不足のようだ。(中古自動車／札幌)
- ・10連休と農繁期が重なるので対応について苦慮している。(農業用機械器具／全道)
- ・今年度は9月に予期せぬ震災があったが、浴場施設には大きな被害もなく営業は安定。廃業施設も例年に比べ少なく、加入施設も3施設ありほぼ良好な平成最後の年。(公衆浴場／全道)
- ・道内の多くのIT企業が3月度の年度決算期を迎えている。慢性的な人手不足を抱えながらも、今年度も堅調にシステム受託開発案件の需要が伸びて、増収を維持する道内中小IT企業が多い中で、減益に転じるIT企業も増加している。その原因は、人材の確保と人手不足に対応するための賃金の引き上げによることが大きい。特に、年功序列的賃金では中堅技術者の離職防止や高度な技術保有者を採用するのが難しい環境になっていることから、道内中小IT企業は発注元との単金UPの交渉を活発化しているが、賃金上昇に追いつかない状況となってきている。新年度もビジネス環境は好調に推移すると予測されるものの、会社業績面では利益の確保に今から頭を悩ます経営者が多い。(ソフトウェア／全道)
- ・3月の十勝川温泉宿泊入込数は、北海道ふっこう割等の効果が継続していることから全体として好調を維持しました。(旅館／音更)

非製造業(建設・運輸業)

- ・3月の業況は、年度末ということもあり工事の発注は少なく、手持ち物件の施工が主となった。各社、労働力も十分であり、新年度に向けての受注・施工に準備中です。(電気工事／全道)
- ・組合員の業況
先月と同様、修繕工事が主な収入源であるが、凍結解氷はほとんどなくなり、除雪を伴う修繕工事は雪解け後に行う場合もあることから、仕事量としては先月同様低迷している。
問題点
仕事量が少ないことから、人員の削減など支出を抑えることとなるため、緊急な事案に対応できないことが懸念される。
地域の実情
新年度に向けて、地元企業の職員募集広告が頻繁に地元新聞に掲載されている。高卒新規就業の内定率がほぼ100%との報道もあり、管内就職も前年よりも増加しているとのことだが、労働力不足が目立っているのが現状。特に土

- 木技術者、技能者が不足しているようだ。(管工事／名寄)
- ・郵便、ヤマト、佐川等の大手が企業間の持ち持ち料金を値上げしており間接的に収支は下降傾向に見えるが、荷主も維持費アップに理解を示していて大きな影響は出ていない。(一般貨物自動車運送／全道)
- ・降雪が少なかったため、除排雪のダンプ等の需要がなく、一部業種は収益面ではマイナスか。(一般貨物自動車運送／小樽)
- ・玉葱については二月同様の荷動きであったが、馬鈴薯については3月中旬以降多少荷動きも良かった。一般カーゴについては鉄骨・部材等建設関係が前月同様に好調。引越しについては引越し時期の分散化の影響があり、数年前から比べると減少した。域内輸送は昨年並みの状況。気温上昇や融雪の早さに伴い、飲料ほか一部の荷動きが良くなっている。一方石油関連は動きが鈍った。(一般貨物自動車運送／石狩)
- ・売上高は前年同月比6.4%減少。乗務員数は前年同月比6.6%、二月分チケット取扱高は前年同月比4.4%(一般乗用旅客／旭川)